

二〇〇三年
あけまして
おめでとうございます。

今年もよろしく
お願い致します。



のんびり正月

末年の年賀状に写真を入れようと、毛糸のヒツジを作った。

土台を割り箸で作り、それに毛糸をくるくると巻きつけただけの簡単なヒツジ。作りながらぼつぼつと思い出してみると、これまで見たことのあるヒツジたちは他の家畜に比べ動きが少ない。記憶に中のヒツジたちは、首を下げモクモクと草を食んでいたり、体を並べて座っていたり。牧羊豚「ベイブ」の映画に出てくるヒツジたちも、かなり頑固だったし...それから、眠れない夜にはヒツジの数を数えるというのを試したこともあった。目の裏にヒツジが現れては低い柵を飛び越え去って行ったのだが、しまいに一頭、柵を飛び越えざまに振りかえり、ぺろりと舌を出して飛び去ったのには驚いた。眠れない人を相手にしすぎて、さすがのヒツジも退屈したのかもしれない。



ヨーロッパ絵画の名品、ファン・エイク兄弟 (Van Eyck Brothers 15世紀) が描いた「ゲント聖バーフ大聖堂祭壇画 神秘の仔羊」を見た時には、絵の中心にある神への捧げ物の羊(キリストを表す羊)の神々しい姿に驚いた。静かに、かつ強く、全てを受け入れるという姿が、キリスト教の羊の表し方だと感じた。



上の写真は、ベルギーで見た羊の群れ。
金属製の羊飼いと羊たちが石畳を静かに歩いてくる。

乳や毛、肉を提供し、しばしば生鬣にもなってきた羊。牧場で草を食んでいる姿を見ていると、何を考えているんだか、といったつぶやきが口から出てしまう。しかし、考えるより先に言葉が出てしまう人が増えた現代では、ヒツジのように頑固とか、ヒツジのように気長とか、のんびりというのは、めずらしいし、貴いことかもしれないとも思えてくる。

「やる意味」とか「有意義な人生」とかを目指さなければならないと思いついてきた私たちだけけれど、「意義」とはいったい何なのか？

「意義」も「正義」も社会が異なれば同一でないこともある、と考えたり、あらためて「有意義」の意味を問い直すことも必要なようだ。

大切な時間

「時間」が重要なマーケティング領域と言われて久しい。同じ店が、日中と夕方以降の時間帯によって商品を変更する「二毛作店」や、昼食時に弁当売場を拡充するコンビニ店など、過去には「近くて、便利で、客の時間をロスさせない」がコンセプトだった店が、より時間を細分化して、スペースの売上効率を追求し始めた。

一方、消費者側が、生活の中で大切にしたい時間とは、自分のために使う時間であり、義務的な作業を効率化することは、より良く生きるための技術のように思って、さほど疑問にも思わないできたのだが... さて、立ち止まって、ヒツジ化して考えてみると、生活の中での義務的な作業時間とは、家事であり、家族にかける手間であったりするのだから、本来は、おろそかには出来ない価値があるという、当たり前のことにあらためて気づくことになる。

マーケティング領域でも、スローフードやスローライフといった時間を大切にする人々へのアプローチが行なわれてきている。

「大切な時間」とは、消費する時間(消費させられる時間)ではなく、「丁寧に使う時間」なのだ、という捉え方で生活する方が幸せそうだ。

機能性植物とでも呼びたい「サンスベリア」



「体にいいから部屋に置いて」といただいたサンスベリア。虎の尻尾のような模様があるのでトラノオとも呼ばれる植物で、見かけは地味め、でも、この植物は、空気を浄化する効果がある上に、マイナスイオンも放出するという利口ものだという。そういえば最近、花店でよく見かける。サンスベリアに限らず、NASAではサトイモ科の植物を大気浄化の目的で研究しているというので、これからは植物の「機能性」が注目されそう。